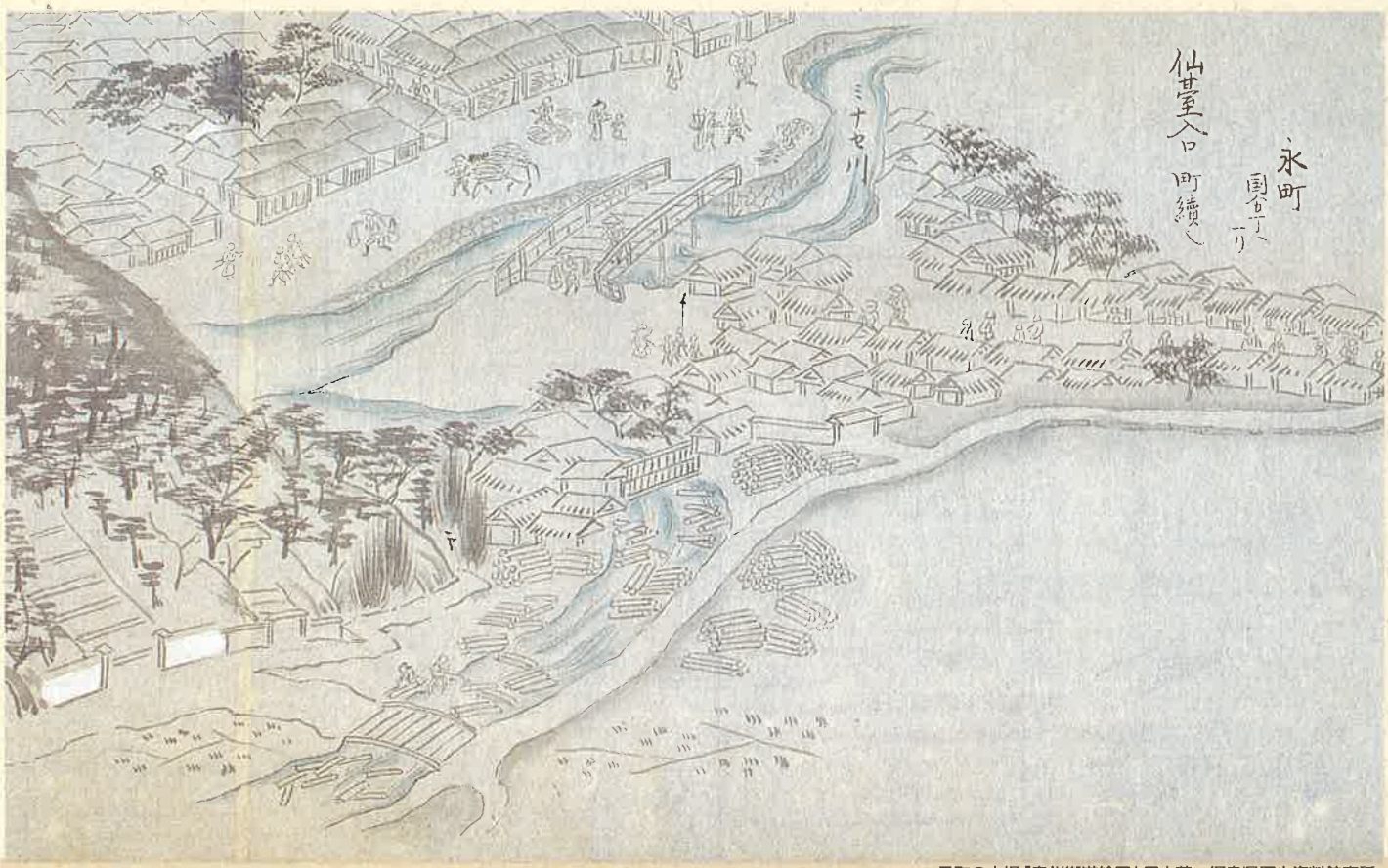
sendai-city chronicles communication paper.

せんだい 市史通信

第9号
仙台市博物館
市史編さん室



長町の木場『奥州街道絵図』個人蔵　福島県歴史資料館寄託

せんだい今昔

仙台城下の流木

仙台城下に燃料を供給するために、仙台藩では「流木（ながしぎ）」というシステムを創り上げていました。これは、「岳（嶽）山（だけやま）」と呼ばれる深山で伐採した樹木を、三尺（約90cm）の長さに小割りして、広瀬川と名取川を流して城下へと運ぶもので、幕末には毎年80万本から100万本の流木が仙台城下に供給されたと言われています。

これだけの流木を毎年城下へ供給するのですから、伐採はかなり大規模に行われていました。例えば明治初年の名取郡新川村の絵図には、広瀬川支流の新川川に流れ込む沢のほとんどに流木のために作られた堤が書き込まれています。また、一つの村の岳山で20年近く伐採を行うと、適当な木がなくなるために、別な村の岳山へ場所を移し、数十年したら元の岳山へ戻るというように、伐採は順ぐりに行われていました。これを「廻し伐り」とよびます。現在はブナなどの大木が生い茂る深山でも、近くに広瀬川や名取川に流れ込む沢がある場所は、江戸時代に伐採を経験していた可能性が大きいのです。

伐採は夏に行われることもありましたが、多くは秋から春にかけて行われ、雪解けで川が増水する春に「木場」と称された集積地を目指して流されたのが一般的だったようです。広瀬川の流木は城下の角五郎の木場、名取川の流木は広瀬川と名取川を結ぶ木流堀を通って城下に南接する長町の木場で川から引き揚げられ、藩の施設や藩士に分配されたのです。

上の絵は奥州街道の様子を描いた巻物に見える長町（「永町」）の木場付近の様子です。画面の左下から流れてきて「ミナセ川」と書かれた広瀬川に合流するのが木流堀です。木流堀を流れてきた流木を引き揚げている人物や流木をせき止めるために堀の中に設けられた柵状の施設、そしてその周囲に積み重ねられた流木が描かれています。道や橋の位置関係は正確さを欠いていますが、木場の様子を教えてくれる数少ない絵画資料の一つとして貴重なものです。

オールカラー
A5判 600頁
定価 3,000円
（本体2,858円）

『通史編4　近世2』からお届けする

スクープ4連発！

三代藩主伊達綱宗　逼塞の真相！

綱宗の隠居を願う証文は、万治3年（1660）7月に伊達一門や奉行など14人によって署名された。
『一門奉行等連署状（隠居願書）』（部分）　仙台市博物館蔵

仙台藩分割を狙った陰謀、あるいは朝廷との結びつきを幕府が警戒したためなど、三代藩主伊達綱宗の突然の逼塞、隠居についてはいろいろな憶測が飛び交っていたが、今回その真相が明らかに。消息筋によると、綱宗は家督相続後間もない時期から遊蕩が目立ち、親類の岡山藩主池田光政、柳川藩主立花忠茂らは仙台藩の重臣を交えてたびたびその対応を協議。老中酒井忠清を通じて綱宗に注意を促したものの失敗。やはり伊達家の親類筋で御三家水戸の徳川頼房（徳川光圀の父）も注意したが綱宗は受け入れず。このままでは藩の存亡にかかわると判断した親類大名と藩の重臣が相談の結果、ひそかに幕府へ綱宗隠居を願い出たものと判明。伊達騒動の発端となった事件の謎が解明された。

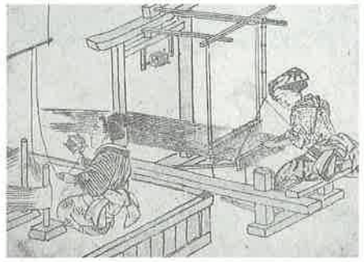
茅葺や板葺の家屋が多かった仙台城下！

時代劇でおなじみの白壁・瓦葺といった土蔵造りの商家は、仙台城下では意外に少なかった。江戸時代中期以降、奥州街道と大町通が交わる芭蕉の辻周辺には瓦葺の建物が増加したものの、それ以外の町屋敷は板葺や茅葺の家屋が多かった。さらに芭蕉の辻の城郭の櫓を思わせる建築も、江戸時代後期以降のものである可能性が高くなった。

仙台城下の7割近い面積を占める武家屋敷の多くは、一部に瓦葺の塀や門が見受けられるものの、上級家臣を中心にこけら葺の建物も多く、下級家臣の場合は町屋敷と同じく茅葺が中心であったと推定され、仙台城下全体を見ても瓦の使用はかなり限られていた模様。

仙台城下北鍛冶町周辺のようす。茅葺の屋根が多く見受けられる。
『増補行程記』　盛岡市中央公民館蔵

女性も町屋敷の名義人に！

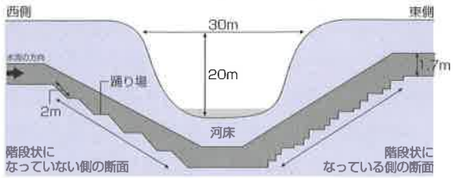


機織りをする女性たち。家庭内の仕事にとどまらず、屋敷の所有という形で社会的な立場を獲得していった。
『百女』　仙台市博物館蔵

男性が社会的な表舞台にあったと思われがちな江戸時代において、江戸時代末期の仙台城下では女性も町屋敷を所有し、名義人になれたことが明らかに。城下の中心であった大町三四五丁目の軒帳（町屋敷の台帳）を分析した結果、少数ではあるが、女性が売買や相続によって町屋敷を有していたことが判明。同時にこうした屋敷を所有する女性も、五人組の構成員、すなわち共同体の構成員として認められていた可能性が強くなった。18世紀初めころに作られた同町の軒帳に女性名義人は見えないことから、江戸時代後期以降に徐々に女性の社会進出が進んだものと思われる。

潜穴で証明された、仙台藩の高度な土木技術！

新田開発を積極的に進めたことにより、仙台藩の裏高（実際の生産高）は100万石以上に達したと言われているが、その背景には灌漑用水技術の発達があったことが判明。とくに丘陵地帯にはトンネルを掘削して用水を引く潜穴（くぐりあな）と呼ばれる技術が仙台藩内各地に普及していた。なかには、川や沢の下にトンネルを掘り、サイフォンの原理を利用して対岸に用水を通じさせる「伏越（ふせこし）」という灌漑施設も存在。仙台城下をくまなく流れていた四ツ谷堰（用水）もこうした潜穴や伏越の技術を駆使して建設されていたことが確認された。



七北田新堰に設けられた伏越の模式図。
サイフォンの原理で川底の下に水を通した。

より詳しい内容については『通史編4　近世2』をご覧ください

資料編11　伊達政宗文書2

『資料編　伊達政宗文書』は、全四巻のシリーズで、伊達政宗（永禄一〇年～寛永一三年、一五六七～一六三六）が発給した文書を編年するものです。

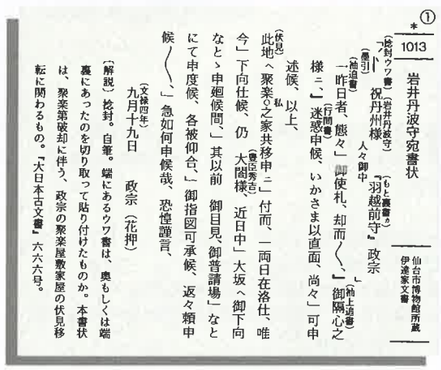
今回の『伊達政宗文書2』は天正十九年（一五九一）までを扱った一巻目に引き続く、文禄元年（一五九二）から元和元年（一六一五）までの二四年間を対象としています。

政宗は、朝鮮出兵（文禄の役）に始まり関ケ原合戦を経て元和偃武に至る歴史の動きのなかで、自らを戦国大名から豊臣大名、そして近世大名へと転身させていきます。この間、慶長六年（一六〇一）に仙台築城と城下の建設を開始、仙台を岩出山に代わる新たな居所に定め、現在の仙台市の基を創ります。また、慶長一八年には慶長遣欧使節を派遣しています。

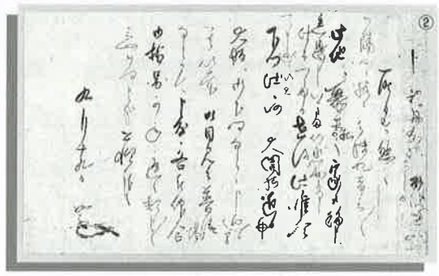
政宗の活躍の舞台も南東北にとどまらなくなり、二四年間の半分ほどは国元を離れています。遠くは肥前名護屋（佐賀県）から朝鮮への出陣がありますが、豊臣秀吉あるいは徳川家康から京都、伏見、大坂、江戸に屋敷を与えられ、活動の拠点とするとともに、妻子を人質として住まわせもいます。

『伊達政宗文書2』は、このような政宗の動静をうかがうことのできる書状などの文書を、原本やそれに準じる模写（影写・臨写）によった五六〇点余りのほか総計九八六点を翻刻して収録しています。

別冊にはこのうち三九九点を写真図版で掲載しました。翻刻との対照はもちろん、政宗の自筆と右筆との筆跡の違いを見て取ることができます。また、全貌を写真図版で紹介できなかった原本・模写のうち一一七点については、署名・花押部分を一覧によって示しました。さらに、印章の原寸大を写真図版で知ることができるようにしています。



①



②

④

③

①本文　②別冊の写真図版　③別冊の花押一覧
④別冊の印章部分の原寸大写真図版

別冊写真集付
A5判 550頁
定価 4,000円
（本体3,810円）

施設探訪　三居沢電気百年館

仙台市史で使いたい写真や資料が博物館にないとき、必要なものはよそからお借りします。また、資料が見つかれば調査に出かけたりもします。このコーナーでは、市史編さん事業の過程で訪れた施設をご紹介します。

広瀬川に架かる牛越橋のたもとにある三居沢電気百年館は、この地に東北で初めて電気が誕生した明治21年（1888）から数えて100年目を記念して、昭和63年（1988）に建てられました。

1階の「三居沢電気百年ギャラリー」では、電気事業の歴史や三居沢発電所の歩み、昔懐かしい家電製品の数々を世の中の動きを振り返りながら紹介しています。また、隣接する三居沢発電所（日本初の水力発電所）内で現在も稼動している実物の発電機と水車をガラス越しに見ることができます。

2階の「水と森のアトリエ」では、発電所を支えてきた広瀬川の水と青葉山の森に棲む動植物や、自然とエネルギーの関係をジオラマや映像で楽しく遊びながら学べます。

テラスからは自然を利用してつくられた三居沢発電所の施設を一望することができます。市街地の近くにある豊かな自然を散策しながら訪れてみたい場所です。

三居沢電気百年館　仙台市青葉区荒巻字三居沢16　TEL022－261－5935
仙台駅西口バスプール16番「交通公園」行き　三居沢交通公園前下車、徒歩3分
休館日　毎週月曜・年末年始（月曜が祝祭日の場合は翌日）
開館時間　10:00～16:00

お知らせ

旧石器遺跡発掘ねつ造問題と「仙台市史」について

平成15年2月
仙台市史編さん専門委員会

藤村新一元東北旧石器文化研究所副理事長による旧石器遺跡発掘ねつ造問題に関しては、日本考古学協会および各種研究機関・自治体などの検証作業によって、多くの旧石器時代遺跡が学術的価値を有しないことが明らかになりました。

その結果、仙台市史編さん事業のなかで平成7年に刊行された『特別編2　考古資料』（以下『考古資料』）及び平成11年に刊行された『通史編1　原始』（以下『原始』）で叙述された旧石器遺跡に関しても、ねつ造の疑義が認められ、学術的な価値を否定されたものが多く含まれていることが判明しました。最新の研究成果を叙述に反映させるという趣旨から、編さん時においては学界の一定の認知を受けていた発掘調査成果をもとに記述を行いましたが、結果的に、ねつ造された資料を用いて歴史叙述を行ってしまったことを読者のみなさまに深くお詫び申し上げます。

『考古資料』及び『原始』で取り上げた遺跡のなかで、平成14年5月に公表された日本考古学協会前・中期旧石器問題調査研究特別委員会の中間報告及び仙台市教育委員会文化財課発表の旧石器検証作業の中間報告で、ねつ造の疑義が認められた遺跡は次の通りです。

○仙台市内
青葉山遺跡Ｂ地点下層（11ｄ層）、青葉山遺跡Ｅ地点下層（７ｂ層）、北前遺跡（後期旧石器も含む）、住吉遺跡（後・晩期旧石器も含む）、富沢遺跡（第30次調査地点の内Ⅰ区25層及びⅢ区26層）、山田上ノ台遺跡（後期旧石器の一部も含む昭和55年調査分）

○宮城県内
上高森遺跡（築館町）、高森遺跡Ｏ地点（築館町）、座散乱木遺跡（岩出山町）、馬場壇Ａ遺跡（古川市）、中峯Ｃ遺跡（大和町）、中島山遺跡（色麻町）

○宮城県外
袖原3遺跡（山形県尾花沢市）、竹ノ森遺跡（福島県福島市）、大平遺跡（福島県西郷村）、原セ笠張遺跡（福島県二本松市）

この他の遺跡に関しても、現在検証作業が進められている遺跡も幾つか存在します。また、仙台市においても教育委員会が検証作業を継続して実施しております。

一方、こうした一連の検証作業によって、富沢遺跡第30次調査地点のうちⅣ区27層（富沢遺跡保存館―地底の森ミュージアム―で保存・公開されている地点）及び山田上ノ台遺跡の昭和59年度調査分については、ねつ造された事実が認められず、後期旧石器時代の遺跡としての価値を持つことが明らかになっています。

以上のような状況から、既刊の『考古資料』及び『原始』を今後ご利用される際には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

①縄文時代以降の叙述に関しては、今回のねつ造問題と関連がなく、今後も学術的価値を有すること。
②前期・中期旧石器時代に関する叙述が歴史的事実に則していないこと。
③後期・晩期旧石器時代に関する叙述についても、その一部に関してはねつ造と関連しており、歴史的事実に則していないが、富沢遺跡第30次調査地点のうちⅣ区などのように問題がない部分もあること。

今回のねつ造問題によって、日本の旧石器時代研究はその研究姿勢を含めて、再スタートすることになりました。今回のねつ造問題を真摯に受け止め、各遺跡における発掘調査の成果に十分な検討を加えて、仙台地方における旧石器時代の「新たな」歴史を皆様にお伝えできるように努力していきたいと考えております。

問合せ先／〒980-0862　仙台市青葉区川内三の丸跡　仙台市博物館市史編さん室
TEL 022-225-0814　FAX 022-216-1830

仙台の歴史を完全収録　各分野ごと続々登場

直接お求めの方　県内主要書店でお求めになれます。

配送をご希望の方　電話・FAXで宮城県教科書供給所へお申し込みください。

発売元　宮城県教科書供給所
〒983-0034
仙台市宮城野区扇町一丁目6-3
TEL:022-235-7181
FAX:022-235-7183

お問い合わせ先
仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862
仙台市青葉区川内三の丸跡
TEL:022-225-3074
FAX:022-216-1830

既刊好評発売中

続刊予定
◎通史編／近世3・近代1～2・現代1～2
◎資料編／近代現代3～4・伊達政宗文書3～4・仙台藩の文学芸能
◎特別編／城館・慶長遣欧使節

【通史編２】古代中世
【通史編３】近世1
【資料編１】古代中世
【資料編２】近世1　藩政
【資料編３】近世2　城下町
【資料編４】近世3　村落
【資料編５】近代現代1　交通建設
【資料編６】近代現代2　産業経済
【特別編１】自然
【特別編３】美術工芸
【特別編４】市民生活
【特別編５】板碑
【特別編６】民俗

※通史編　3,000円(本体2,858円)
※資料編　4,000円(本体3,810円)
※特別編　6,000円(本体5,715円)
板碑のみ 5,000円(本体4,762円)
1冊ずつお求めになれます

【通史編１】原始（販売停止）
【資料編10】伊達政宗文書1（完売）
【特別編２】考古資料（販売停止）

これからの予定

6月下旬　第6回仙台市史でまえ講座（岩切市民センター）
8月上旬　『市史せんだい』Vol.13発行
9月下旬　第7回仙台市史でまえ講座（西多賀市民センター）
11月下旬　第13回仙台市史セミナー（仙台市博物館ホール）

※各イベントの内容につきましては、今後の『仙台市政だより』、『仙台市博物館だより』などでお知らせいたします。
※お問い合わせは仙台市博物館市史編さん室まで。

せんだい市史通信 第9号
発行年月日／平成15年3月31日
編集・発行／仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862　仙台市青葉区川内三の丸跡
TEL／022-225-3074　FAX／022-216-1830
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum

R100
古紙配合率100%白色度85%再生紙を使用しています